

「場所打ちコンクリート杭の施工」正誤表

令和4年4月

頁	行または 図表番号	誤	正
35	表1.3.2	スウェーデン式サウンディング	スクリューウエイト貫入試験
40	表1.3.4下2行目	(JIS A 1219-2013)	(JIS A 1219:2013)
41	7行目	スウェーデン式サウンディング試験(JIS A 1221-2013)	スクリューウエイト貫入試験(JIS A 1221:2020)
41	10行目	100kg	1000N
41	11行目	貫入深度	貫入量
41	11行目	半回転数	換算半回転数
41	16行目	各荷重時の沈下量	1000N以下で自沈する最小荷重である静的貫入最小荷重
41	16行目	貫入	貫入量
41	16行目	半回転数	換算半回転数
41	図1.3.9(C)	おもり(25kg×2+10kg×1)	おもり(0.25kN×2+0.10kN×1)
41	図1.3.9	スウェーデン式サウンディング試験	スクリューウエイト貫入試験
55	表1.3.10	地層区分(分類,厚さ),地下水位	地層区分(分類,深度,厚さ),地下水位
55	表1.3.10	地層構成の把握	地層構成の把握,支持層深度の確認
55	表1.3.10 「備考」欄下	-----	室内土質試験のためのサンプリングが可能である
55	表1.3.10	スウェーデン式サウンディング試験	スクリューウエイト貫入試験

「場所打ちコンクリート杭の施工」正誤表

令和4年4月

頁	行または 図表番号	誤	正																			
55	表1.3.10	貫入量1m当たりの半回転数(N_{sw})	静的貫入最小荷重(W_{sw}),貫入量1m当たりの換算半回転数(N_{sw})																			
55	表1.3.10	地盤の極限支持力(q_d),地盤反力係数(k_v),変形係数(E_o)	地盤の極限支持力 度 (q_d),地盤反力係数(k_v),変形係数(E_o)																			
75	表1.5.2 右上	<table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <th colspan="5" style="text-align: center;">化 学 成 分 (%)</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">Si</td> <td style="text-align: center;">Mn</td> <td style="text-align: center;">P</td> <td style="text-align: center;">S</td> <td style="text-align: center;">$C + \frac{Mn}{6}$</td> </tr> </table>	化 学 成 分 (%)					Si	Mn	P	S	$C + \frac{Mn}{6}$	<table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <th colspan="4" style="text-align: center;">鋼 分 析 値 (%)</th> <td rowspan="2" style="border: 2px solid red; text-align: center;">炭素当量 (%)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">Mn</td> <td style="text-align: center;">P</td> <td style="text-align: center;">S</td> <td></td> </tr> </table>	鋼 分 析 値 (%)				炭素当量 (%)	Mn	P	S	
化 学 成 分 (%)																						
Si	Mn	P	S	$C + \frac{Mn}{6}$																		
鋼 分 析 値 (%)				炭素当量 (%)																		
Mn	P	S																				
75	表1.5.2	化学成分	溶鋼分析値																			
75	表1.5.2	$C + \frac{Mn}{6}$	炭素当量(%)																			
91	8行目,11行目, 13行目,14行目	日本工業規格	日本 工業 規格																			
91	14行目	Japanese Industrial Standard	Japanese Industrial Standard s																			
91	14行目 15行目	工業製品	工業 製品																			
91	15行目	規格	工業 規格																			
91	18行目	日本工業標準調査会 (Japanese Industrial Standard Committee)が 工業標準化に関する	日本 工業 標準調査会 (Japanese Industrial Standard s Committee)が 工業 標準化に関する																			
91	21行目～	-----	さらに、2019年7月の法改正では、標準化の対象にデータ、サービス、経営管理等が追加され、法律の名称が産業標準化法に改められるとともに、日本工業規格から日本産業規格に改められた。																			

「場所打ちコンクリート杭の施工」正誤表

令和4年4月

頁	行または 図表番号	誤	正																																	
91	25行目	Japanese Agriculture Standard	Japanese Agricultural Standards																																	
316	28行目～	-----	鉄筋かご建込み前に二次溝底処理を行う理由として、鉄筋かご挿入後は、鉄筋かごや補強フレームが障害になり、物理的にスライム処理を行う機械を溝底まで挿入できないためである。																																	
326	3行目	(JIS G 3112-2020)	(JIS G 3112:2020)																																	
326	表2.11.1 タイトル	異形棒鋼の寸法,質量および節の許容限度	異形棒鋼の寸法, 単位質量及び 節の許容限度																																	
326	表2.11.1 項目追加	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">量</th> <th rowspan="2">節の平均間隔の最大値 mm</th> <th colspan="2">節の高さ</th> <th rowspan="2">節のすき間の和の最大値 mm</th> <th rowspan="2">節と軸線との角度</th> </tr> <tr> <th>最小値 mm</th> <th>最大値 mm</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>20</td> <td>0.2</td> <td>0.4</td> <td>2.2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	量	節の平均間隔の最大値 mm	節の高さ		節のすき間の和の最大値 mm	節と軸線との角度	最小値 mm	最大値 mm		20	0.2	0.4	2.2		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="5" style="border: 2px solid red;">節の許容限度</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">量</th> <th rowspan="2">節の平均間隔の最大値 mm</th> <th colspan="2">節の高さ</th> <th rowspan="2">節のすき間の合計の最大値 mm</th> <th rowspan="2">節と軸線との角度の最小値</th> </tr> <tr> <th>最小値 mm</th> <th>最大値 mm</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>20</td> <td>0.2</td> <td>0.4</td> <td>2.2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	節の許容限度					量	節の平均間隔の最大値 mm	節の高さ		節のすき間の合計の最大値 mm	節と軸線との角度の最小値	最小値 mm	最大値 mm		20	0.2	0.4	2.2	
量	節の平均間隔の最大値 mm	節の高さ			節のすき間の和の最大値 mm	節と軸線との角度																														
		最小値 mm	最大値 mm																																	
	20	0.2	0.4	2.2																																
節の許容限度																																				
量	節の平均間隔の最大値 mm	節の高さ		節のすき間の合計の最大値 mm	節と軸線との角度の最小値																															
		最小値 mm	最大値 mm																																	
	20	0.2	0.4	2.2																																
326	表2.11.1 項目	節のすき間の和の最大値	節のすき間の 合計 の最大値																																	
326	表2.11.1 項目	節と軸線との角度	節と軸線との角度の 最小値																																	
326	表2.11.1	45° 以上	45° 以上																																	
326	表2.11.1 「公称周長」数値	「1.3」～「16.0」	「 13.3 」～「 159.6 」																																	
368	図2.12.11	$\ell = \{(D^2 - d^2) \times \pi / 4\} / (d^2 \times \pi / 4) \times L$	$\ell = \left\{ (D^2 - d^2) \times \frac{\pi}{4} \right\} \times L / (d^2 \times \frac{\pi}{4})$																																	
468	表4.2.5 「トリクロロエチレン」 の 「溶出量基準」 「地下水基準」	0.03mg/ℓ以下	0.01 mg/ℓ以下																																	

「場所打ちコンクリート杭の施工」正誤表

令和4年4月

頁	行または 図表番号	誤	正
468	表4.2.5 「トリクロロエチレン」 の 「第二溶出量基準」	0.3mg/ℓ以下	0.1mg/ℓ以下
468	表4.2.5 「カドミウムおよび その化合物」の 「溶出量基準」 「地下水基準」	0.01mg/ℓ以下	0.003mg/ℓ以下
468	表4.2.5 「カドミウムおよび その化合物」の 「含有量基準」	150mg/kg以下	45mg/kg以下
468	表4.2.5 「カドミウムおよび その化合物」の 「第二溶出量基準」	0.3mg/ℓ以下	0.09mg/ℓ以下
468	表4.2.5 「セレンおよびその 化合物」の 「溶出量基準」	0.01mg/ℓ以下	0.01mg/ℓ以下